

◆富山県[立山博物館]



日本学術会議
立山公開シンポジウム 2010

「〈場の感性〉の蘇生にむけて」

立山を舞台に、環境・文化・思想・教育・芸術を考える

日程：平成22年**7月26日**(月) 10:00~16:30

会場：富山県[立山博物館] 遙望館

◆参加費：無料

◆お問合せ先：富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県立山町芦峯寺93-1 TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

◆申込方法：インターネットまたはFAX(郵便)で富山県[立山博物館]までお申し込みください。(会場の都合で、先着100名様で締め切らせていただきます。)

[インターネット].....

富山県[立山博物館]のホームページ

<http://www.pref.toyama.jp/branches/3043/3043.htm>

日本学術会議「立山公開シンポジウム2010」参加申込書により申し込んでください。

E-mail:

[FAX・郵便].....

日本学術会議「立山公開シンポジウム2010」参加申込書と明記のうえ、住所・氏名・連絡先をご記入し、富山県[立山博物館]まで送付してください。(FAX 076-481-1144)

◆当日の昼食：当日は、遙望館前で昼食の販売を行います。(料金350円~500円程度)

◆立山博物館へのアクセス

電鉄富山駅から立山線乗車、千垣駅下車。(乗車時間約50分)

千垣駅から徒歩20分(2km) ※当日は千垣駅からバスも出ています。(運行時刻注意)

主催：日本学術会議(芸術と文化環境分科会&環境思想・環境教育分科会)、富山県[立山博物館]

協賛：青山学院大学総合文化政策学部、中部大学国際人間学研究所

「〈場の感性〉の蘇生にむけて」

【開催の趣旨】

世界は今、さまざまな危機や問題に直面しています。その本質を問うとき、私たちはこう考えざるを得ません——研究・教育の専門領域化や知の先端化が進むとともに、むしろ感性と知性、芸術と学術、信仰と日常、自然と人間との間に見えない壁が築かれてきたのではないかと。

こうした問題意識から、本シンポジウムは、あらためて自然と人間の営みを包み込む「環境」に着目します。とくに、峻厳な自然のもとで育まれた立山信仰の拠点、立山博物館のある芦崎寺地域を会場とし、この土地の叡智に学びつつ、現代社会および私たち一人ひとりが環境との繋がりのなかに生きる意義を検証し、環境の持つ全体性の豊かさを追求します。その際に私たちは、「場の感性(センス・オブ・プレイス)」——特定の場もしくは環境との分ちがたい関係のなかで展開するさまざまな現象や出来事に対する確かな感性——の重要性を再認識すべきでしょう。このシンポジウムはまた、そうした感性を涵養する方法を共に考え、広くその大切さを訴えようとするものです。

【シンポジウム・プログラム】

セッション1 「立山の〈場の方〉とは？」 10:00～12:00

報告：米原 寛（富山県立立山博物館 館長）
福江 充（富山県立立山博物館）
原口 志津子（日本美術史・富山県立大学）
討論：岩城 見一*（美学芸術学・前京都国立近代美術館館長）
内堀 基光*（文化人類学・放送大学）
岡島 成行*（環境教育・公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長／大妻女子大学）
司会：前田 富士男*（西洋美術史・中部大学）

セッション2 「〈場の方〉をいかに生かすか」 13:00～14:30

報告：梅原 賢一郎（美学芸術学・京都造形大学）
鳥越 けい子*（サウンドスケープ・青山学院大学）
討論：尼ヶ崎 彬（美学／舞踊論・学習院女子大学）
氷見山 幸夫*（地理学・北海道教育大学）
美山 良夫*（音楽学／アートマネジメント・慶應義塾大学）
司会：外山 紀久子*（美学・埼玉大学）

セッション3 「〈場の感性〉をいかに学び伝えるか」 14:45～16:30

報告：鬼頭 秀一*（環境倫理学・東京大学）
討論：飯田 稔*（野外教育・びわこ成蹊スポーツ大学）
加藤 尚武*（環境倫理学・鳥取環境大学名誉学長）
佐伯 安一（民俗学・富山民俗の会代表）
司会：進士 五十八*（ランドスケープ・早稲田大学）

総合司会：小澤 紀美子*（環境教育・東海大学）

注）氏名の後の*は日本学術会議会員を表す（選出・特任選出会員を含む）